

【司会】

むかし、むかし、わがままで、自分勝手な女王様がいました。女王様は、これまで、自分で勝手に法律を作って、その法律で、何もしていない人を、牢屋に入れていました。

女王様のことを見て笑った人は、笑っただけで、牢屋に入れられていたのです。(女王様が誰か弁護士を牢屋に入れる)

しかし、あるとき、女王様は、国の子ども達から、自分勝手な法律を作るのは良くない！と言われて、女王様は、自分勝手だったことを反省しました。

そこで、女王様は、何でもかんでも自分勝手に決めることは良くないと、みんなのことは、みんなで決めないといけないと考えを改めました。

【女王様セリフ】

「でも～、みんなで決めるって、どうやって決めればいいのかしら？ そうだ！じゃんけんはどうだろう。実は、わらわは、じゃんけんが大好きなのだ。」

「みんなー！じゃんけんは好きかー！」(右の握り拳を突き上げる)

「男子ー！」(右の握り拳を突き上げる)

「女子ー！」(右の握り拳を突き上げる)

「お父さーん！」(右の握り拳を突き上げる)

「お母さーん！」(右の握り拳を突き上げる)

※ノリが悪ければ、「もう1回」と言って繰り返す

「じゃんけんをしたいかー！」(右の握り拳を突き上げる)

「それじゃあ、まずは、おやつの間だー」(両腕を体の前でぐるぐる回すなど、何でもいいけど、女王様がやりやすく、子どもがノリやすいアクションをして下さい。以下、何かアクションと表記)

「わらわに、じゃんけんで勝った者に、チョコレートをやるぞー！」

「いくぞー！全員、スタンダップ！」

「では、最初はグーでやるぞー。よいかー。」

「いくぞ，最初はグー，じゃんけんぽん！」

じゃんけんをする

「わらわに負けた者と，あいこの者は座るのじゃ，勝った者だけ立っておれ。」※立っている人数が多ければ，もう1回じゃんけんしてもよい。

「よし勝った者は，前に来い。チョコレートをやるぞ。」

「よし，もう1回チョコレートを賭けて勝負だ！」

(省略)

「よし，では，今度は，みんなの給食のメニューをじゃんけんで決めよう。」

「みんなは，何が食べたい？そこの男子は？」(適当に子どもに聞く)

男子「カレー」

女王「カレー，キター」(何かアクション)

「隣の女子は？」

女子「納豆」

女王「ねばねば納豆菌だー！かもすぞー！」(何かアクション)

「じゃあ，鳥居，お前は何が食べたいか」

鳥居「????」

女王「????????だぜー」

※上記のように，弁護士が指摘されたら，適当にアドリブをお願いします

5人くらいに聞く

女王「じゃあ，思い切って，じゃんけんで勝った人が，月曜日から金曜日までの給食のメニューを全部決めてよいことにするぞよ。」

じゃんけん。女王とじゃんけんをし，負けた者とあいこの者は座る。勝ったものが数人になったら，その子たちでじゃんけんをさせ，勝

者を1人決める。

女王、勝った人名前とに月曜から金曜までのメニューを言ってもらおう。

「よし、わが国の給食のメニューは、来週から、〇〇さんが決めたメニューに決めたぞ」

「給食をメニューを決めたから、今度はそうじ当番をきめよう」

「わらわに勝った人はそうじをしなくていい、負けた人とあいこの人は、来週のそうじ当番だ」

じゃんけんする

「ついでに再来週のそうじ当番も決めよう」

じゃんけんする。

「そうじ当番、2回とも勝った人はいる？（挙手を求める）おぬしらは勝てて良かったのう。2回とも負けた人はいる？まあ、たまたまだから、次に勝てば良いではないか」

「そうじ当番も決まったことだし、次は、楽しい楽しい修学旅行をどこに行くか決めよう。みんなー、修学旅行どこに行きたい？」
子どもに適当に聞いていく。保護者や弁護士に聞いてもい。5個くらい候補が出るまで聞く。

「それじゃあ、修学旅行もじゃんけんで決めるぞいー」

この修学旅行のじゃんけんでは、女王は最初から最後までグーを出し続ける。

弁護士が2人ほど勝ち残るようにして、勝ち残った弁護士同士でじゃんけんをし、勝ったほうが、「鳥取砂丘に行きたいです」と言う

女王「えー、鳥取砂丘？どうせなら、わらわは〇〇（最初に挙げてもらった場所を適当に言う）とか××とかに行きたかったのに〜。」

「みんなは、修学旅行が鳥取砂丘でもいい？」

子どもに「やだ」と言う声は何人かから出るまで、聞いていく。

それじゃあ、じゃんけんではなくて、多数決で決めよう。
最初に挙げてもらった場所プラス鳥取砂丘で多数決を採る。
女王「多数決の結果、修学旅行は、△△に行くことに決めたぞ！」

女王「そうじゃ、さっきはじゃんけんで決めたけど、やっぱりそうじ当番も、多数決で決めよう。わらわは、そうじ当番をしたくないから、そうじ当番を男子がするか、女子がするか、多数決で決めよう」

「そうじ当番を男子がすればいいと思う人？、手を挙げてー」

「じゃあ、女子がすればいいと思う人？」

男子がすればよいという多数決であれば、女王「それじゃあ、多数決の結果、そうじ当番は男子がするのじゃ。これからずっと男子がそうじをするのでよいな。」

「えー」とか言う男子がいたら、女王「だって、多数決で決めたんだから、男子がそうじやってよね。」

【司会】

女王様、女王様、じゃんけんや多数決で決めてきましたが、本当にじゃんけんや多数決で決めて良かったのでしょうか。

みんなは、今から、じゃんけんや多数決で決めて本当に良かったのかどうかを考えてみてください。じゃんけんや多数決で決めるのが良くないと思ったら、どうして良くないと思うのか、良くないと思った理由を考えてみて下さい。

それで、後で、グループで発表してもらいます。

さっき、じゃんけんや多数決で決めたことのほかに、次の3つのことについて、多数決で決めていいのかどうかを考えて下さい。

Aさんは、将来弁護士になりたいと言っていますが、Aさんは、おもしろくてみんなの人気者なので、みんなからはお笑い芸人のほ

うが向いていると思ってます。Aさんの将来の夢やなりたい仕事を、みんなの多数決でお笑い芸人に決めても良いのでしょうか。

給食のおばさんが、みんながピーマンを残すので困ってます。給食でみんなが残したピーマンを食べる係りを、多数決で決めても良いのでしょうか。

総理大臣になりたい人が、2人います。どちらを総理大臣にするかを、多数決で決めても良いのでしょうか。

発表してもらった後の解説

【解説】

まず、物事をみんなで決める場合は、決め方が公平じゃないといけません。

じゃんけんは、勝つかもしれないけど、負けるかもしれないというものです。じゃんけんは、勝つ確率も負ける確率も同じだから、公平なんじゃないかと思うかもしれません。

でも、物事をみんなで決めるときに公平な決め方といえるどうかは、みんなが決まったことを受け入れられるかどうかポイントです。みんなが受け入れられるかどうかというのは、立場が変わったり、反対の立場になったりしても、納得できるかどうかということです。給食のメニューは、じゃんけんにも勝った人が一方的に決めているので、負けた人の中には、決まったメニューに納得できなかった人もいます。

そうじ当番も、負けた人とあいこの人だけそうじ当番をすることになるから、やっぱり納得できなくて不満が残るから、じゃんけんは公平な決め方といえないです。

逆に、例えば、鬼ごっこの鬼をじゃんけんで決めるのは、公平な決め方なんです。というのは、鬼ごっこをするときには誰かが最初に鬼にならないといけないし、途中で鬼がどんどん替わって行って、みんなが鬼になる可能性があるから、じゃんけんで負けても、負け

た人は納得できているんです。

次に多数決で決めることについてですが、みなさんが、何かを決めるときには、多数決で決めることが多いかと思います。

多数決は、大人の世界でもよく使われています。多数決は、公平な物事の決め方だと考えられています。

どうして、多数決が公平な決め方と考えられているのかというと、通常は、多数決で決める前に、話し合いをしているからです。

修学旅行の行き先を多数決で決めましたが、今日は時間がなかったのですが、本当であれば、どうしてそこに行きたいのかとか、こういう場所があってそこを見てみたいからとか、みんなに色々な意見を言ってもらって、話し合いをしてもらうことになります。みなさんも、学校のクラスで何かを決めるときに、学級委員長が司会をして、みんなに色々な意見を言ってもらって話し合いをして、最後に多数決をとって決めていることが多いかと思います。もちろん、話し合いで、全員の意見が一致すれば、多数決をしなくてもよいことになります。

多数決が公平な決め方だと考えられているのは、多数決をする前に、みんなに意見をいってもらおうという話し合いをしているからなんです。

もし、話し合いを全然せずに多数決をすることがあったら、いくら多数決をしたからといっても、その多数決の結果は、公平ではないといえます。

そうじ当番を男子がやるか女子がやるかを多数決で決めましたが、これももし話し合いをすれば、男子だけがやるのか女子だけがやるというのはおかしいという話し合いになって、男女のどっちかだけがそうじ当番をやるという多数決は、しないかもしれません。

また、話し合いをした場合であっても、男子だけがそうじをするとか女子だけがするとか多数決を採る内容そのものが、公平ではない場合があります。男子だけがそうじをするとか女子だけがそうじを

するという内容が公平ではないのは、立場が変わったり反対の立場になった場合に、やっぱり納得できないからです。

また、多数決では、話し合いをしていけば、何を決めていいというわけではありません

たとえば、話し合いをしたとしても、給食の残りを食べる係りを決めるとか、一部の人だけに不利益を与えるような多数決をしてはいけません。

また、そもそも、多数決で決めること自体が良くないことがあります。その人が将来なりたい仕事とか夢とかについては、そもそも多数決でみんなが決めるものではなくその人が自分自身の考えで決めるものだから、多数決で決めることはできません。

総理大臣を多数決で決める場合も、それぞれの候補が、日本をどういう国にしたいとか、自分の考えを国民に説明した上で、国民が決めるということになるので、話し合いと同じ役割のことが行われているので、公平な決め方になっているんです。

ちょっと、説明が長くなりましたが、今日、みなさんに分かって欲しいことは、大きく二つあります。一つ目は、公平な物事の決め方というのは、立場が変わったり反対の立場になったとしても、納得できるものでないといけないということ。二つ目は、多数決が公平な決め方であるというためには、多数決の前にみんなで話し合いをしなければならぬということです。

ちょっと難しいかもしれませんが、この二つを分かってくれたらいいなと思っています。

女王様は、分かりましたか。

女王「はい。わかりました。」

司会「それでは、女王様は、今後はじゃんけんで決めることはやめて、みんなで話し合いをしてから、話し合いで決まらなければ多数決をして決めて下さい。これで、2時限目の授業は終わります。」